その他普及記事 (Other articles)

書評：『新種発見物語　足元から深海まで 11 人の研究者が行く！』（岩波ジュニア新書）

Book review

大塚 健佑

Ken'yu Otsuka

静岡県富士市

Fuji-shi, Shizuoka, Japan

E-mail: doronkoboy10@yahoo.co.jp

Article Info: Submitted: 13 May 2023 Published: 30 September 2023

「新種発見」それは生物分野において、メディアでもしばしば目にする話題ではないだろうか。現代日本では、多くの生物の図鑑が分野ごとに非常に多く刊行されており、その図鑑一つひとつに非常に多くの種が記載されている。こうして、多くの種が既知種であると認識されている現代では、新種が発見されたことに対するインパクトが大きい。しかし、そういった記事では新種の概要が注目されがちで、「新種発見」に至るまでのプロセスが語られることはほとんどなかった。

本書は、「新種発見」の経緯を 11 人（分野）の研究者がそれぞれ独自の視点で語ったものである。自身も菌類分野の探求を趣味としている者の一人であることから、新種を発見し、記載することが容易ではないことは理解している。そのため、困難さが前面に出やすくなり、読者が惹き込まれる物語の展開は難しいのではないかと考えていた。しかしそれは読み始めてまもなく完全に裏切られることとなった。

各章ごとに記載される「新種発見」へのプロセスで共通するのは、「疑問」を原動力に「解決」へ向かって突き進む行動力である。新種を見つけようとして動き出すというより、分野（もしくは種）をもっと深く知りたいと考えているのである。そして「疑問」の背景にあるのはその分野（種）に対する「愛」である。愛するものを知りたいという心理は誰もが少なからず持っているものであり、それに伴う行動力は困難を易々と乗り越えていく。多くの人にとって（ジュニア文庫の対象年代であれば特に）身近な「愛」が背景にあるゆえに、各章で語られる「新種発見」の経緯には、分野を超えて読者の多くが惹き込まれることだろう。

また、注目すべきはその「愛」に伴う行動に、理解者や同士が関わるプロセスが必ず存在することである。その中にはこうした研究者を育てた親も含まれる。それゆえに、親の視点から本書を読むことにも意義があるかもしれない。

書影（出版社の許可を得て掲載）

もう一点注目すべきは、各章（分野）により「新種発見」に至るまでの疑問や興味の持ち方が少しずつ違っている点である。本書のターゲットとなる読者層は、多感な若者であるが、彼らはとりわけ物事に対する感じ方が様々である。そんな人々がシンパシーを感じられる書籍としても非常に優秀であるだろう。

さて、本書では当会のメインテーマである地下生菌の「新種発見」に関する章が掲載されている。本誌『Truffology』編集長である山本航平氏が執筆した章である。この章では氏の生い立ちから地下生菌の新種どころか新属までも創設するに至る旅路が語られている。氏の地下生菌に関する膨大な知識と発見の数々は会員であれば当然知るところである。しかし、氏が地下生菌に関して何を「疑問」に感じ、「新種発見」に至っているかを知る機会は少ないのではないだろうか。そういう意味では地下生菌を探求する諸氏の心得を指南する教科書にもなり得る内容であろう。

コロナ禍で行動が制限される時代が終わり、動きを始めようと考える若者とその親、さらには地下生菌の探求を続ける諸氏が味読するに足る一冊である。

© The Japanese Association for Truffle Science (JATS), 2023